

## 祝 辞

大学・大学院に進学された皆さん。ご入学、まことにおめで  
とうございます。

人生の節目となる記念すべきこの日に、御本尊 阿弥陀如来の  
御前で入学式が挙行されますこと、心よりお祝い申しあげます。

大学は学問探求の場であるとともに、人格形成の大切な場  
でもあります。どうか実り多き学生生活をおくられますよう、  
念願いたしております。

また、大学四年間の勉学を修められ、この度、めでたく大学院  
へと進学された皆さんにおかれましては、それぞれの専攻課程に  
おいて、さらなる研鑽を深め、学術研究に貢献されますこと、  
大いに期待いたしております。

皆さんが通われる本学は、仏教の精神、特に親鸞聖人が開  
かれた浄土真宗のみ教えを「建学の精神」として教育にあたっ



そこで入学式にあたり、仏法に基づく二つのキーワードを皆さんに贈りたいと思います。それは精進と報恩感謝という言葉です。

お釈迦さまは臨終にあたり、次のように弟子たちに語られたといわれています。

「では修行者たちよ、汝たちに告げる。もろもろの現象は移ろいゆく。怠らず、努めるがよい」

真実のさとりを求めて、ひたすら修行する、実践する、怠らず、努めることが「精進」です。人はみな、それぞれの道で生涯勉強、怠けず努力精進することが求められている、それが肝要だということでもあります。その結果、うまくいくこともあるし、いかないこともある。世間では結果を大事にします。どうしてもこだわってしまいますが、たとえ結果が出なかったとしても、いつまでも落ち込まない、思いを引きずらないことです。そして、もし仮にうまくいったとしても、それを決して自慢しない。自慢しないで、立ち止まらないで、次の目標に向かってまた、

歩み続けることができるようになった時、本当に尊く美しい人になるのだと思います。

もうひとつは「報恩感謝」という言葉です。努力精進することとが大事だからといって、人は自分の努力、人間の力だけで生きていくわけではありません。水道の蛇口から出てくる水も、ペットボトルの水も元をただせば雨や雪です。雨や雪が降ってくださらなければ、人間は生きていきません。田植えが無事にすんでも、太陽の光に恵まれなければ苗は育たないし、農家の方のご苦労も大変です。大地と水と太陽の光と、多くの方のご苦労、さまざまなき縁、いのちのつながりのなかで、私たちは共に生き、生かされて生きていくのです。

新型コロナウイルス感染症の影響のなかで、東京の築地本願寺が行った調査では、多くの方が「当たり前前だと思っていたことが当たり前ではなかったと感じた」という結果が報告されています。自粛生活において、これまで当たり前に行ってきた他人との交流や集いが制限されたことで、私たちがどれだけ多くの

つながりのなかで生きていたかということ、皆さんも、改めて実感されたのではないでしょうか。

どうか入学生の皆さん、自分の目標を定め、それに向かって常に努力精進し、「おかげさまでありがとう」の感謝の心を忘れない人になってください。そして、自分だけを大事にすることなく、人と喜びや悲しみを分かち合う、体験の機会を多く持つてください。

それぞれの学業にいそしみ、本学の「建学の精神」である仏法と親鸞聖人のみ教えに教え導かれ、自らの人生を築き上げていく時、皆さんの将来は、前途洋々たるものとなるでしょう。

仏さまのお悟りの真実とお慈悲のもと、入学生諸君のご多幸を念じます。

本日は、ご入学、誠におめでとうございます。

二〇二二（令和三）年 四 月 三 日

浄土真宗本願寺派 総長 石上 智康